

GM History in Japan

日本における歴史

1927 大阪に日本ゼネラルモーターズ株式会社を設立（資本金 800 万円）、シボレー車の組立開始（エンジン工場、車体工場、塗装工場、最終組立工場からなるこの組立工場の生産能力は、月産 2,000～2,500 台。生産第 1 号車は、シボレー 1 トン/1.5 トントラックとシボレー 4 ドアセダン。以後、ビュイック、オークランド、ポンティアック、オールズモビル、オペル・コーチ、ブリッツ・トラック、ボグゾール、ベッドフォードと続いた。1941 年までの累計販売台数は 150,000 台。）

1941 第二次世界大戦により操業中止

日本 GM ホームページより抜粋



大正区における自動車産業の歴史

(株)クボタも自動車の草創期を大正区内で担っていた。(株)クボタの 100 年史『クボタ 100 年』から)

大正 8 年 (1919)	「実用自動車製造(株)」設立 社長：久保田権四郎氏(クボタの創始者) 工場：大阪市西区南恩加島町(当時)
大正 9 年 (1920)	「ゴルハム式三輪自動車」の製造開始 (翌年 10 月までに約 150 台生産)
大正 10 年 (1921)	四輪自動車の製造開始
大正 12 年 (1923)	小型四輪車・リラー号開発 (大正 15 年までに約 200 台生産)
大正 15 年 (1926)	「ダット自動車製造(株)」設立 (実用自動車製造(株)とダット自動車商会の合併) (昭和 2 年(1927)～5 年に貨物自動車を 362 台生産)
昭和 5 年 (1930)	水冷式 4 気筒 500cc 小型自動車を試作
昭和 6 年 (1931)	大阪・東京間のノンストップ運行試験を完走 【ダットソン※と名づけて販売(日産自動車のダットサンの原型)】 ダット自動車製造(株)の株式を戸畑鋳物(株)(日産自動車の前身)へ譲渡(9 月)

※ダットソン(DATSON)：ダットはダット自動車商会の前身「快進社(日本初の国産自動車メーカー)」の設立に関わった 3 名の方の頭文字(DAT)であり、大正 4 年(1915)に製造された「DAT 自動車(脱兎号)」を受継ぎ、息子としてのソン(SON)と掛け合わせ命名。のちのダットサンは、SON が「損」に通じるとして「SUN(太陽)」に変更し命名。